

第42回

全国ボランティア推進団体会議

民ボラ in 静岡

静岡大会
テーマ

言い逃げ社会に抗う～市民活動は何ができるか～

2025.

7/5土・6日

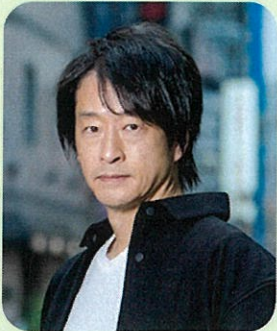
会場

静岡県総合社会福祉会館
(シズウエル)
会議室 701～703
(静岡県静岡市葵区駿府町1-70)

参加費

1日のみ 2000円
2日間 3000円・当日支払い可
・振り込み先は後日お知らせします

フォームより申込み



基調講演

「ネットで真実を知った人と
どう関わるか？」

(13:15 開会 12:45 開場)

7.5土 13:30～15:10 | 会議室 703

鈴木 エイトさん
(ジャーナリスト)インターネット (web) 上にはありとあらゆる情報が飛び交っている。
ネット情報の氾濫により、選挙や感染症対策、災害支援などの現場において分断が生じている。
現状を把握し、それに向き合い対処するためにどうすればいいかを考える。

分科会1

「市民の自発性・運動性を促進する役割
～行政の補完ではない、
市民自治促進組織としての在り方～」市民活動の持つ力とそれをサポートする「中間支援組織」の
役割とは？市民の自治や運動につながっていく在り方について
考えます。

7/5土 15:20～17:50 | 会議室 701

講師 吉田 忠彦さん (近畿大学 経営学部教授)

分科会2

「これからの多文化共生社会とは？
～市民の取り組みの可能性と課題～」人口減少が進む日本で、学びや暮らしの場として移り住む外
国人が増えています。社会システム維持の担い手として期待
が高まる一方で、多文化共生の課題も顕在化しています。課題
解決に向けて、市民活動の果たす役割や可能性を探ります。

7/5土 15:20～17:50 | 会議室 702

講師 鈴木 江理子さん (国士館大学教授)
松本 義一さん (NPO 法人フィリピンナガイサ代表理事)
肥田 進さん (NPO 法人開発教育 FUNCLUB 代表、しずおか自主夜間教室)

分科会

分科会3

「格差時代のつながりを考える
～市民活動と SDH の視点～」つながりの重要性については多くの人が知るところと
なっています。その一方で「つながりたくてもつながれ
ない」人たちの存在も明らかになっています。私たちの
できることとは何か？を探ります。

7/6日 9:00～11:30 | 会議室 701

講師 武田 裕子さん
(順天堂大学大学院 医学研究科医学教育学 教授)

分科会4

「被災者支援に「対話」が外せないわけとは
～フェーズフリーで求められる『対話の場づくり』
～熱海市伊豆山土石流災害の事例から～」熱海市伊豆山土石流災害における避難所運営から3年に
わたる被災者支援の事例を通し「どうしたら平時から
対話の場づくりができるのか」について参加者と対話を
しながら考えます。

7/6日 9:00～11:30 | 会議室 702

講師 鈴木 まり子さん
(NPO 法人日本ファシリテーション協会フェロー)

お問い合わせ

特定非営利活動法人 静岡県ボランティア協会 TEL 054-255-7357 / FAX 054-254-5208 / <https://shizuvol.jp/>

ボランティア推進団体会議 (世話団体)

認定 NPO 法人茨城 NPO センター・commons、社会福祉法人大阪ボランティア協会、NPO 法人静岡県ボランティア協会、社会福祉法人世田谷ボランティア協会、認定 NPO 法人ちば市民活動・
市民事業サポートクラブ、東京ボランティア・市民活動センター (社会福祉法人東京都社会福祉協議会)、社会福祉法人東京都共同基金会、一般社団法人東京メディエーションセンター、
認定 NPO 法人とちぎボランティアネットワーク、ボランティア・市民活動学習推進センターいたばし、NPO 法人山梨県ボランティア協会、認定 NPO 法人 JUON (樹恩) NETWORK (五十音順)

第42回

全国ボランティア推進団体会議

民ボラ in 静岡

静岡大会
テーマ

言い逃げ社会に抗う～市民活動は何ができるか～

2025.

7/5土・6日

会場

静岡県総合社会福祉会館
(シズウエル)
会議室 701~703
(静岡県静岡市葵区駿府町1-70)

参加費

1日のみ 2000円

2日間 3000円

- ・当日支払い可
- ・振り込み先は後日お知らせします

基調講演ほか4分科会を開催

ネット社会の分断にどう向き合い、市民の力でつながりを取り戻せるか。

変化の時代を生きる私たちにとって、市民社会やそこで営まれるボランティアな市民活動とはどのような意味や役割があるのでしょうか？

本大会では、ネット社会に潜む分断の構造に光を当てるとともに、それを乗り越える市民活動の可能性を多角的に探ります。分断を越え、希望をつなぐヒントを静岡で共に見つけましょう。

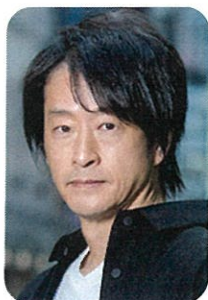
オープニング

13:15～13:30 大会主催者からご挨拶・ほか

基調講演

「ネットで真実を知った人とどう関わるか？」

会議室 703 13:30～15:10



講師 鈴木 エイトさん (ジャーナリスト)

ジャーナリスト・作家。日本大学卒。日本ペンクラブ会員（言論表現委員会）。やや日刊カルト新聞主筆。日本脱カルト協会理事。カルト問題、カルトと政界、カルトの2世問題、選挙、ニセ科学、HPV訴訟などを取材、執筆。

趣旨・目的

インターネットから得られる情報や知識は、アルゴリズムによって検索され深まっていくものであり、またそれはユーザーの興味や過去の行動に沿うように選択された情報です。それらの情報を鵜呑みにし、「ネットで真実を知った」人同士の間で「分断」が生じています。選挙や感染症対策の現場のみならず、災害支援の現場でも対立や分断が生じています。ここでは、インターネットで得られる情報との付き合い方、分断や対立の避け方などについて考える場とします。

ボランティア推進団体会議（世話団体）

認定 NPO 法人茨城 NPO センター・コモンズ、社会福祉法人大阪ボランティア協会、NPO 法人静岡県ボランティア協会、社会福祉法人世田谷ボランティア協会、認定 NPO 法人ちば市民活動・市民事業サポートクラブ、東京ボランティア・市民活動センター（社会福祉法人東京都社会福祉協議会）、社会福祉法人東京都共同募金会、一般社団法人東京メディエーションセンター、認定NPO法人とちぎボランティアネットワーク、NPO 法人ボランティア・市民活動学習推進センターいたばし、NPO 法人山梨県ボランティア協会、認定NPO法人JUON（樹恩）NETWORK（五十音順）

7/5

土



分科会1

「市民の自発性・運動性を促進する役割 ～行政の補完ではない、市民自治促進組織としての在り方～」

会議室 701 | 15:20～17:50



講師 **吉田 忠彦さん** (近畿大学 経営学部教授)

1959 年京都市生まれ。近畿大学経営学部教授、京都大学公共政策大学院非常勤講師。(公財) 日本非営利組織評価センター評議員他。著作に、『地域と NPO のマネジメント』(晃洋書房、編著)、『非営利組織論』(有斐閣、共著)、『市民社会論』(法律文化社、共著)、『市民社会創造の 10 年—支援組織の視点から』(ぎょうせい、共著)、『日本のコレクティブ・インパクト: 協働から次のステップへ』(中央経済、共著) など。

趣旨・目的

少子高齢化、人口減少などが進む中、本来的に行政の役割でなされるべきことに民間の力を期待されることが増えています。本来、市民活動は、困っている人を放っておけない自発的な思いから始まり、社会を変える力を持っていますが、いつの間にか、行政の委託や指定管理に縛られていないでしょうか？そして、市民による自治や運動につながるようなコーディネーションを中間支援組織はできているでしょうか？中間支援組織のこれからの役割も改めて見直してみます。

分科会2

「これからの多文化共生社会とは？～市民の取り組みの可能性と課題～」

会議室 702 | 15:20～17:50



講師 **鈴木 江理子さん** (国士舘大学教授)

国士舘大学文学部教授。一橋大学大学院博士課程修了。博士(社会学)。NPO 法人移住者と連帯する全国ネットワーク共同代表理事、認定 NPO 法人多文化共生センター東京理事、一般社団法人かながわ国際交流財団理事等を兼任。移民政策や人口政策、労働政策を研究するかたわら、外国人支援の現場でも活動。

趣旨・目的

人口減少が進む日本で、学びや暮らしの場として日本を選ぶ外国人の増加が続いています(2024 年末で 377 万人。人口の 3.05%)。多様な文化的背景を持つ人々の存在は、日本社会の多様性を高める点でも、急激な人口減を抑制し社会システムを維持する上でも、大きな期待が寄せられています。一方で、多文化共生を進める上での課題も多くあります。多文化共生社会の構築に向けて、市民活動が果たす役割や可能性を探ります。



講師 **松本 義一さん** (NPO 法人フィリピンナガイサ代表理事)

フィリピンナガイサ代表理事。大学卒業後カナダ留学を経て、フィリピンナガイサでフィリピン人児童生徒の日本語教育に関わる。フィリピン日系人会インターナショナルスクールで日本語教育コンサルタントとして活躍。帰国後、同団体の活動に復帰。2011 年よりフィリピン人若者支援を開始。2016 年より静岡県内定時制高校非常勤講師・外国人生徒支援員、2018 年より浜松市教育委員会外国人子供支援協議会委員。



講師 **肥田 進さん** (NPO 法人開発教育 FUNCLUB 代表、しずおか自主夜間教室)

34 年間、静岡市の小学校教員として勤務。教頭 4 年、校長 5 年。退職後は、焼津市の学校で、外国ルーツの子どもたちの教育支援員、不登校生徒の教育相談員。NPO 法人開発教育 FUNCLUB 理事長。しずおか自主夜間教室代表として、社会参画が困難な人たちの伴走支援を行う。

交流会 | **もちより懇親会** ●参加費別途 1500 円 ●要事前申込み

7/5

静岡県総合社会福祉会館 (シズウエル)
2 階 ボランティアビューロー

18:00～20:00



全国各地から静岡に集まってきた皆さんと交流しましょう。各地自慢のお土産を持参いただけると嬉しいです。

7/6 日

分科会3 「格差時代のつながりを考える ～市民活動とSDHの視点～」

会議室 701 9:00～11:30

講師 武田 裕子さん
(順天堂大学大学院 医学研究科医学教育学 教授)



筑波大学医学専門学群卒業。専門は内科 / プライマリ・ケア、医学教育、地域医療、国際協力。健康格差の社会的決定要因 (SDH) をテーマに「自己責任」と言わない医師を育てる教育に取り組む。路上生活者の支援活動に定期的に参加。在住外国人の健康格差の改善に向けて「やさしい日本語」の普及を図っている。また、SOGI (性的指向・性自認) によらず安心して医療を受けられる病院を目指す順天堂医院で、「SOGI 相談窓口」を担当している。

趣旨・目的

様々な活動や地域づくりにおいて「つながり」の大切さは強調されてきました。「社会的処方」などでも人の繋がりが地域を元気にする鍵となること言われています。その一方でつながれない人たちの存在も少なからずあることも見えてきました。SDH (健康の社会的決定要因) の視点について学ぶことで、「つながり」をより豊かなものに変えていけること、さらに日頃の活動において SDH の視点を活かす方法などについて考える機会とします。

分科会4 「被災者支援に「対話」が外せないわけとは ～フェーズフリーで求められる『対話の場づくり』 ～熱海市伊豆山土石流災害の事例から～」

会議室 702 9:00～11:30

講師 鈴木 まり子さん
(NPO 法人日本ファシリテーション協会フェロー)



ファシリテーターとして多様な分野での会議やワークショップを進行。また、ファシリテーションを伝える研修講師。日本ファシリテーション協会のメンバーとして東日本大震災から支援活動を開始し、令和3年熱海市伊豆山土石流災害では、静岡県被災者支援コーディネーターとして熱海市で活動した。現在は、災害支援ネットワークはまなつ na net 事務局長として、能登半島に通っている。著書『ソーシャル・ファシリテーション「ともに社会をつくる関係」を育む技法』北樹出版

趣旨・目的

災害時には「避難所の自主運営」の話し合いから始まり「仮設住宅のコミュニティづくり」や「復興計画の策定」と合意形成が求められる日々が続いていきます。行政主導やトップダウンではない住民主体の復興を実現するためには「対話の場づくり」への支援が求められます。この分科会では、熱海市伊豆山土石流災害における避難所運営から3年にわたる被災者支援の事例を通し「どうしたら平時から対話の場づくりができるのか」について参加者と対話をしながら考えます。

振り返り

クロージング全体会

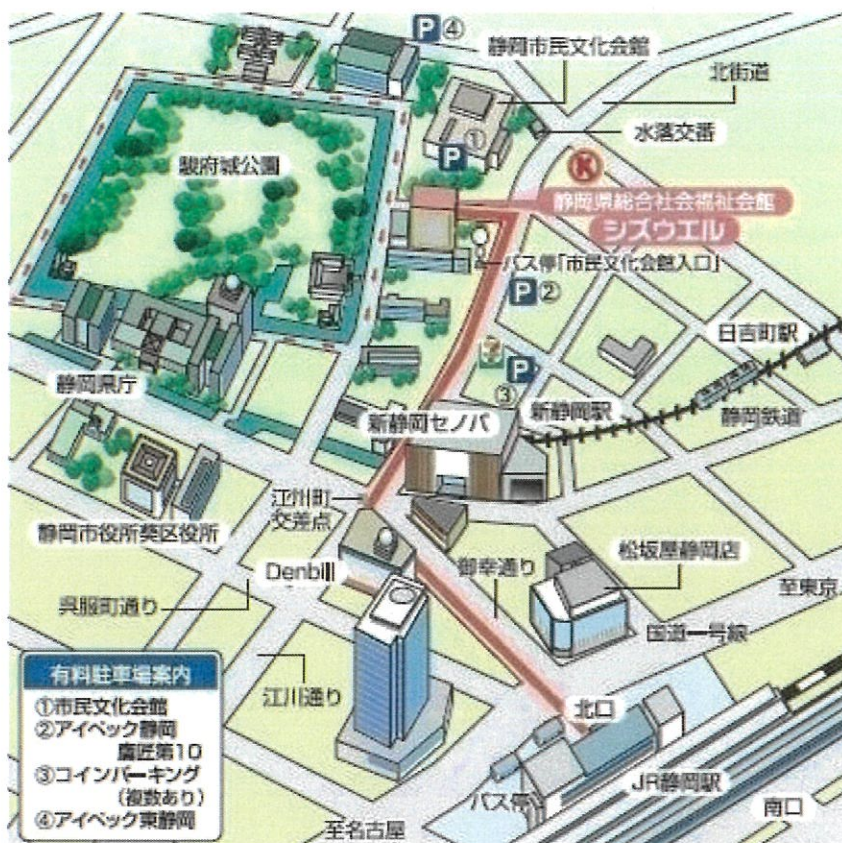
7/6 日

静岡県総合社会福祉会館 (シズウエル)
会議室 703

11:45～12:45

2日間の振り返りと共有をしましょう。次回大会のお知らせも！





静岡県総合社会福祉会館（シズウエル）

〒420-0856 静岡県静岡市葵区駿府町 1-70

TEL : 054-255-7357 FAX : 054-254-5208

アクセス JR 静岡駅、静鉄新静岡駅よりバス又は徒歩

バス JR 静岡駅バスのりば⑤⑥⑩番へ
「市民文化会館」下車、徒歩約2分

⑩番のりば（駿府浪漫バス）

始発 10:00 から終発土日 16:00 まで

30 分おきに運行します

⑤番のりば（子ども病院線、唐瀬線、上足洗線）

⑥番のりば（北街道線、東部団地線、水梨東高線、竜爪山線）

徒歩 JR 静岡駅から約 15 分、新静岡駅から約 8 分

お問い合わせ

特定非営利活動法人 静岡県ボランティア協会

TEL 054-255-7357 / FAX 054-254-5208 / <https://shizuvol.jp/>